様式２－２

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

１．実践校について

実践校名	がっこうほうじん　ほうざわがくえん　めいせいこうとうがっこう 学校法人　　朴沢学園　　明成高等学校	
学科名	生徒数	学級数
調理科（１～３学年）	２８２名	９クラス
介護福祉科（１～３学年） 介護福祉士養成コース 介護員養成コース	７０名	４クラス ※コース別合同クラス有り
普通科（１～３学年） 情報表現コース デザインアートコース 総合コース 健康スポーツコース	６０５名	１９クラス ※コース別合同クラス有り

２．実践研究の対象

介護福祉科　介護福祉士養成コース（１～３学年　５４名）
　　介護員養成コース（１～３学年　１７名）

３．実践研究の実施経過

６月　１日　契約締結
　　８日　校内介護技術コンテスト選考会
　２６日　安養寺若葉ハイツでの介護予防教室
　２８日　吉成中学校出前授業
７月　１日　夏のオープンスクール
　　４日　南光台東小学校出前授業
　　６日　川平壮寿会との交流会②
　　８日　県民大学開講
　１４日　長命ヶ丘小学校出前授業
　１５日　イオン仙台中山店「健康相談会」③
　　県民大学開講
　１８日　中田中学校出前授業
　　認知症すごろく講習会（立川真也氏、山崎史香氏）
　１９日　MEISEI 発信大使育成プロジェクト校内選考会
　２１日　介護福祉教育情報交換会（福祉教育アドバイザー委嘱６名）
　２２日　高校生介護技術コンテスト東北大会出場
　２７日　広瀬病院「んだっちゃ体操」講習会

８月１５日　　イオン仙台中山店「健康相談会」④
　　２２日　　三条中学校出前授業
　　２３日　　「ふくし わいわい祭り」ポスティング活動
　　２６日　　「ふくし わいわい祭り」
９月　５日　　紙おむつ講習会
　　７日　　川平壮寿会との交流会③
　　８日　　手話講習会
　　杜のホスピタルあおば施設見学会
　　１２日　　うらやす施設＆テレノイド見学会
　　１５日　　イオン仙台中山店「健康相談会」⑤
　　２４日　　千葉県浦安市　銀木犀見学＆認知症ファシリテーター研修会
１０月　５日　　ＶＲ認知症体験講座（下河原忠道氏）
　　７日　　秋のオープンスクール
　　８日　　仙台大学 東北こども博ボランティア
　　１５日　　イオン仙台中山店「健康マルシェ」⑥　　※「健康相談会」から改称
　　２２日　　全国高校生介護技術コンテスト出場
　　３１日　　東四郎丸小学校出前授業
１１月　１日　　映画「ケアニン」上映会
　　２日　　川平壮寿会との交流会④
　　８日　　柳生中学校出前授業
　　１０日　　広瀬病院介護の日イベント
　　１２日　　宮城県産業教育フェア
　　１３日　　ケアニン講演会（加藤忠相氏）
　　１４日　　宮城県福祉教育研究会・シナプソロジー講習会（藤井直子氏）
　　１５日　　イオン仙台中山店「健康マルシェ」⑦
　　１６日　　田子中学校出前授業
１２月　５日　　南中山小学校出前授業
　　７日　　川平壮寿会との交流会⑤
　　８日　　カンボジア小・中学生との国際交流イベント
　　１１日　　八乙女中学校出前授業
　　１５日　　イオン仙台中山店「健康マルシェ」⑧
　　１６日　　社会福祉・介護福祉検定
　　１８日　　南中山小学校出前授業
１月１５日　　イオン仙台中山店「健康マルシェ」⑨
　　１６日　　認知症サポーター講習会（蓬田裕樹氏）
　　１７日　　南光台地区「十人十色カフェ」
　　２８日　　介護福祉士国家試験
２月　１日　　川平壮寿会との交流会⑥
　　１０日　　「第３回ケア研究会」
　　１６日　　川平小学校出前授業

４．実践研究の実施体制

役 割	役 職 等	氏 名
責任者	明成高等学校校長	佐々木稲生
顧問	介護福祉科学科長	狩野　宏史
副顧問	介護福祉科部長	榎本寿美代
事務担当	教科「福祉」教科主任	髙橋　祐也
	介護福祉科教諭	樋口　智美
	介護福祉科教諭	支倉　淳美

介護福祉教育アドバイザー（外部協力者）

所　属	役 職 等	氏 名
宮城県保健福祉部 長寿社会政策課	課長	成田　美子　氏
仙台大学 体育学部 健康福祉学科	学科長	大山さく子　氏
仙台青葉ロイヤルケアセンター	介護課長	日下　大輔　氏
グループホームよもぎ埜	所長	蓬田　裕樹　氏
株式会社リジョイス	社長	立川　真也　氏
介護イノベーションアートクリエイター		山﨑　史香　氏

５．教育委員会等として取り組んだ内容

私立学校につき、教育委員会等における取り組みはなし

様式２－３

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：学校法人 朴沢学園　明成高等学校（介護福祉科）

概要

〇教科「福祉」及び、特別活動等、教科横断的な授業実践等を行い、他教科及び他の学科・コース、さらには他校種連携・地域との連携を図ることを通じて、実社会とのつながりを重視した課題解決型学習プログラムを開発する。

学習プログラムの目標

〇教科「福祉」を通して、今後の福祉社会を構成する自立した主体となり、さらに、震災復興の中心的担い手となる為に、必要な知識についての理解を深め、その理解をもとに社会的な福祉に関連する課題について探求する態度を育成する。

学習プログラムの主な内容

①「高校生と社会人が共に福祉について学び合い、未来の福祉について語り合う環境づくり」

→　介護員養成コースカリキュラム「実務者研修」において社会人受講生２名を受け入れ、生徒と共に研修を受講している。

②「中高大連携、地域連携での福祉人材育成の推進」

→　小中学校での出前授業、オープンスクール、MEISEI 発信育成大使プロジェクト、川平壮寿会活動参加等により、本校の教育資源を提供すると共に、地域を中心とした生徒の活動の場を広げ、連携を図った。

③「介護・福祉に関する研究会の実施」

→　生徒の学びから地域における学校の役割を考え、地域内で出来ることを実践し、地域の方と共に未来の福祉について考える「ケア研究会」を実施した。
会では未来の地域福祉の充実を目指し、生徒から２つの提言を掲げた。

④「福祉の魅力発信プロジェクトの推進」

→　地域で暮らす誰もが「共に楽しみ、共に支え合い生きる」ことの大切さを伝えるために「ふくしわいわい祭り」を開催し、自分たちの言葉で福祉の魅力及び地域のつながりの大切さを発信した。

⑤「教職員及び実習指導者の指導力向上」

→　介護福祉教育アドバイザーを委嘱し、新しい福祉教育のあり方について助言・指導をいただくと共に、授業では体験・経験できない学習プログラムを設定し、教育力の向上を図った。

学習プログラムの成果の概要

①について

社会人にとっては、今後国家資格を取得するにあたり専門的知識・技術の習得が出来るとともに、改めて福祉の原点を振り返る機会となった。また、生徒にとっては、現に介護職で活躍する社会人と学ぶことで現場の生の声を聴くことが出来るため、福祉に対する不安の排除や、仕事に対するイメージを明確にすることが出来た。

②について

生徒が活動の場を広げることで、心身の状況の異なる方々や様々な年齢層の方々等、多様な人との関わりが生まれ、状況に応じたコミュニケーション能力が高まり、意欲的に人と関わる力を身につけることが出来た。

③について

生徒の成長段階に応じた福祉の気づきについて、その成果を発表することが出来た。魅力ある福祉社会を築くために、地域の方々と一緒に参加出来たことは、今後の活動につながる大きな成果と言える。また、これまでの学びから自分たちに出来ることは何か、社会に考えてほしいことは何かを主体的・能動的に発信することが出来た。

④について

地域にはどのような人々が暮らしているのかを知ってもらい、人とつながり支え合うことの大切さを感じてもらえる祭りとなった。生徒達は、様々な場面で目配りをし、高齢者に積極的に声をかけ手助けするなど、優しさと思いやりのある対応が自然に出来ていた。

⑤について

福祉業界のプロフェッショナルによる「福祉のあり方」に関する講演会や講習会を実施することで生徒達が刺激を受け、「福祉の理想」について真剣に考える機会となった。一方で、理想と現実とのギャップも感じ、そこにどう向き合うべきかを考えるようになった。